

B 20 衣服原型肩傾斜に与える人体因子について
文化女大家政 ○橋尾礼子 三吉満智子

目的 衣服の人体への適合を考えると、肩部の適合は着装時の美的効果から要求されると同時に運動機能性の点で重要な問題であるといえる。本研究では、その基礎的段階として衣服原型の肩傾斜角度にかかわりをもつ人体静立時の形態因子を探ることを目的に行なった。

方法 胸囲82~86cmの人体(21~22才女子)から型採りした石膏像6体をモデルとし、その形態因子を種々の方向から数量化し、衣服原型肩傾斜との関係を抽出し、その関係式を求めた。形態因子の計測方法としては①体表の角度を角度計および写真からの測定によって求める②スライディングゲージによって求めた水平断面図上の上部胸部の傾斜を求める③メジャーにより各計測点間の実長計測値を求める、という方法を用いた。衣服原型は短寸式作図理論により作図し、着装によって確認後その展開図にあらわれた肩傾斜角度と①②③から得た計測値との関係を相関分析、回帰推定式により検討した。

結果 1)原型展開図の前身頃肩傾斜は実長計測による前丈と前肩先丈の差、前丈と後丈の差に高い相関を示し、写真による肩傾斜角度ともかかわりをもっているが、水平断面図からの計測項目は単独では前身頃肩傾斜に影響を与える因子とはならない。2)原型展開図の後ろ身頃肩傾斜は肩甲骨ダーツをA.Hからとった場合の肩傾斜より、肩線からのダーツにした場合のほうが相関の高い項目が多く、後丈と後肩先丈の差や前面鎖骨上部から頸側点への傾斜角度とかかわりが大きい。3)原型展開図の前後肩傾斜の差および後ろ身頃肩ダーツ量は前肩度、肩甲骨の突出の度合を代表する数値と相関が高い。